

カリキュラムの特徴

- 文理共通の学部モジュール科目および共通科目、そして文系は理系の科目から、理系は文系の科目からそれぞれコース横断科目として履修することで、知識を幅広く吸収することができます。
- 共通科目は、環境の諸側面を文理両面から捉える文理融合を具現化した科目で、1つの科目を文系・理系の教員が担当しています。環境科学を学ぶ基盤的内容になっています。
- 環境科学のトピックを英語で紹介する「Introduction to Environmental Science」や環境問題を題材として英語コミュニケーション能力を培う「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」などグローバルな人材育成にも力を入れています。
- 学部モジュール科目と共通科目から専門科目への履修がスムーズに行えるよう、橋渡しの役目を果たす基礎科目群が充実しています。
- 教養教育の「情報基礎」に加えて「環境情報処理」など、コンピュータを用いた情報処理教育が充実しています。インターネットを通じた地球規模での環境保護ネットワークなども身近に感じることができます。
- 環境に関連する職業に従事されている方々を講師として招いて開講される「環境科学特別講義」では、現場での環境問題の取り組みについて理解を深めることができます。
- 環境問題の現状を理解する上で、大学の外に出て現場の体験をすることが重要です。「環境フィールド演習Ⅰ・Ⅱ」など現場力を涵養する科目が充実しています。
- コース専門科目は、環境政策コースでは「国際環境」「環境構想」「環境まちづくり」の3サブコース科目群、環境保全設計コースでは「環境技術」「地球環境」「生物多様性」「生体影響」の4サブコース科目群を設け、専門性の涵養が系統的に取り組めるようになっています。
- 所定の単位を取得すれば「社会調査士」や「環境再生医」の資格が取れます。
- 「環境政策演習」や「環境保全設計演習」など少人数のゼミナールが充実しています。自分で積極的に問題点を見つけだして討議することができます。
- 合宿オリエンテーションや担当教員を割り当てるクラス担任制度がありますので、身近に個別指導を受けることができます。
- 企業、官庁、NPO などでの就労体験や職業体験を通じて、実際の仕事の内容、社会人としての自覚と責任などについて学ぶ「インターンシップ」科目が設けられています。
- 環境科学部ではGPA (Grade Point Average) 方式により成績の総合評価を行い、成績優秀者には早期卒業 (3年間で卒業) の道を開き、より高度な学問により早く接する機会を制度化しています。